

用語解説		
あ	I o T あい・おー・ていー	Internet of Things (インターネット・オブ・シングス ; 「モノのインターネット」) 自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すこと。
	I C T あい・しー・ていー	Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) 情報・通信に関する技術の総称。
	秋月 あきづき	中世に秋月氏が古処山に山城を築き、秋月氏 16 代、近世になって黒田氏が 12 代と城下町として賑わっていた地域。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、武家屋敷や町屋等の城下町の様子が、周辺の自然景観、田園景観と調和し、歴史的風致となっている。主に秋月中学校校区。
	空き家バンク あきや ばんく	移住希望者と空き家の売却希望者(または貸出し希望者) をマッチングするシステム。
	あさ暮らし住宅補助事業 あさくらし じゅうたく ほしよ じぎょう	市外在住者(移住者)が、朝倉市に転入するため、市内業者に発注して、住宅の新築及び建売住宅の購入を行う場合に、費用の一部を市が補助する制度。3 世代世帯の市内居住者や移住者が住み続けるために、市内にある住宅をリフォームする費用に対して、経費の一部を補助する「あさ暮らし住宅リフォーム補助金」制度もある。
	一時保育 いちじ ほいく	保護者の方が仕事や病気、急な用事などで、家庭で保育が出来ない場合に一時的に保育所で子どもを預かる制度。
	イノベーション いのべーしょん	技術革新。物事の「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」のこと。新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革を意味する。
	インターチェンジ (I C) いんたー ちえんじ	複数の道路が交差する、又は近接する箇所において道路を立体的に接続する構造の施設のこと。朝倉市には、大分自動車道の「甘木」「朝倉」「杷木」の 3 つのインターチェンジがある。
	インフラ いんぷら	産業や生活の基盤として整備される施設のこと。道路、鉄道、上下水道、電力網、通信網、治水施設などの公共的・公益的な設備や施設、構造物。
	A I えー・あい	Artificial Intelligence(アーティフィシャル・インテリジェンス) 人工知能のこと。
	エコ農産物 エコ のうさくぶつ	環境と調和した農業を推進する取組みで栽培された農産物。 福岡県には、化学合成農薬の散布回数(成分回数)と化学肥料(窒素成分)の使用量をともに県基準の半分以下で生産する栽培計画を認証する制度「ふくおかエコ農産物認証制度」がある。この制度

		に基づき生産された農産物(認証農産物)には、認証マークを表示することができ、消費者は農産物の情報を知ること、安全・安心で環境にやさしい農産物を購入することができる。
	S N S えす・えぬ・えす	Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) 人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型の会員制サービス、あるいはそういったサービスを提供するウェブサイトのこと。
	S D G s えす でいー じー ず	※詳細は別途図解 Sustainable Development Goals(サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ) 先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。
	N P O えぬ・ぴー・おー	様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対する収益の分配を目的としない団体の総称。
	縁結び応援事業 えんむすび おうえん じぎょう	結婚の意欲はあるが、出会いの機会が少ない独身男女に対する出会いの機会を提供し、結婚のきっかけを図る取組み。
か	介護予防ポイント かいごよぼう ぽいんと	市民の介護予防を応援するポイント制度で、運動や食事、健(検)診、社会参加など、自分に合った介護予防に取り組み、ポイントを貯め、特典に応募できる仕組み。
	学童保育所 がくどう ほいくしょ	親の就労を助け、子どもの放課後の生活を安全に保つことを目的として、仕事などの都合で帰宅が遅くなる保護者に代わり、放課後に児童(小学生)を保育する施設。遊びや勉強など、子どもたちを見守る支援員がいる。
	関係人口 かんけい じんこう	※詳細は別途図解 定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人のこと。
	観光入込客数 かんこう いりこみきゃく すう	毎年1月から12月にかけて、市内観光地などを訪れた観光客の数。
	キャッシュレス決済 きゃっしゅれす けっさい	クレジットカードや電子マネー、口座振替を利用して、紙幣・硬貨といった現金(キャッシュ)を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法。
	キャリアデザイン きゃりあ ださいん	自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。
	平成29年7月九州北部豪雨 きゅうしゅう ほくぶ ごうう	2017年(平成29年)7月5日から6日にかけて福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨。朝倉市で特に被害が大きく、最多雨量は586.0ミリに達し、九州地方整備局管内で初めて「大雨特別警報」が発令され、筑後川右岸の支川において堤防の決壊、大量の土砂や流木による河道埋塞等により浸水被害が発生した。
	クラウドファンディング くらうど ふあんでいんぐ	群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)を組み合わせた造語。 不特定多数の人がインターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。
	グリーンツーリズム ぐりーん つーりずむ	緑豊かな農山漁村でゆっくりと滞在し、訪れた地域の人々との交流を通じて、その自然、文化、生活、

		人々の魅力に触れ、様々な体験等を楽しむ余暇活動のこと。
	K P I けー・ぴー・あい	Key Performance Indicator (キー・パフォーマンス・インディケータ；「重要業績評価指標」) 施策ごとの達成すべき成果目標として設定するもの。施策の効果を客観的に検証できる指標。
	健康寿命 けんこう じゅみょう	寝たきり、認知症などによる要介護状態ではなく、元気で活動的に暮らすことができる期間。
	合計特殊出生率 ごうけい とくしゅ しゅっしょうりつ	1人の女性が一生の間に平均何人の子どもを産むかを示す指標で、15から49歳までの女性の年齢別出生数を合計した数値。
	国土強靱化（地域強靱化） こくど きょうじんか(ちいき きょうじんか)	大規模自然災害から、とにかく人命を守り、また経済社会への被害が致命的なものにならず、迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた国土、地域、経済社会システムを平時から構築する取り組み。
	子育て応援宣言 こそだて おうえん せんげん	男女従業員の子育て支援を推進するための具体的取り組みを企業・事業所のトップが宣言し、県が登録する制度。
	子育て世代包括支援センター こそだて せだい ほうかつ しえん	妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に対応するため、母子保健にかかる専門職が専門的な見地から相談支援等を実施し、妊娠期から出産、子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行う拠点。
	コミュニティスクール こみゆにてい すくーる	「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教法第47条の6）に基づき、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組み。（学校運営協議会制度） 市では、コミュニティスクールの導入を通して、学校と地域の人々が課題を共有し、共通の目標・ビジョンを持って、地域とともにある学校づくりを推進する。
	コミュニティ協議会 こみゆにてい きょうぎかい	日常生活のふれあいや共同の活動、共通の経験を通して、連帯感や共同意識、信頼関係を築きながら、自らの地域を地域住民みんなの力で自主的に住み良くしていく地域社会のこと。
さ	災害ボランティア さいがい ぼらんていあ	地震や水害、火山噴火などの災害発生時および発生後に、被災地において復旧活動や復興活動を行うボランティアのこと。 朝倉市では、平成29年7月九州北部豪雨災害以降、全国から多数の災害ボランティアの方々に支援いただき、復旧・復興に向けて取り組んでいる。
	再生可能エネルギー さいせい かのう えねるぎー	石油や石炭、天然ガスといった有限な化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった自然界に常に存在するエネルギーのこと。地球資源の一部を利用するため、地球環境に対する負荷が少なくなる。
	サテライトオフィス さてらいと おふいす	企業本社や、官公庁・団体の本庁舎・本部から離れた所に設置されたオフィスのこと。
	産業政策マネージャー	個人事業主などに対する経営にまつわる指導や助

さんぎょう せいさく まねーじゃー	言、企業誘致に向けた事前調査や協議など、専門的な知見を活かして渉外を行う人材。商工観光課に配置。
産後ケア さんご けあ	出産後の心身が不安定になりやすい一定期間、支援を必要とする産婦等並びにその新生児及び乳児に対し、母体の管理その他の保健指導を行う事業。
産品想起率 さんぴん そうきりつ	株式会社ブランド総合研究所が行う地域ブランド調査の中で「それぞれの市区町村で、購入したいと思う、具体的な産品名」という問いに対し、回答された100人当たりの記入数。
三連水車、三連水車の里あさくら さんれんすいしゃ	三連水車は、約230年前に設置された自動回転式の重連水車で、実働する水車として、寛文年間に初めて設けられた堀川用水とともに国の史跡に指定されている。 三連水車の里あさくらは、敷地内に躍動する三連水車の実物大モニュメントを設置し、特産品として名高い博多万能ねぎをはじめ、朝倉産野菜・果物・地元の特産品・惣菜などを多く取り揃えている物産館。
ジェンダー じぇんだー	社会的・心理的・文化的に作られる性別のこと。女性や男性の社会的役割や性格などの特性は、社会や文化の中で形成された後付けのものであり、変革が可能である。
事業承継問題 じぎょう しょうけい もんだい	経営者の高齢化にともない後継者が確保できず、休業・廃業などを余儀なくされる問題。中小企業の経営者は60代から70代の割合が高く高齢化の傾向にある。この傾向が増加すると、中小企業が培った技術や雇用の損失につながるため、経済に大きな打撃となるとされる。
自主防災組織 じしゅ ぼうさい そしき	災害による地域の被害を予防・軽減するための活動を地域内で行う組織。主に自治会など、地域住民が日常生活上の一体性を感じられる区域を基礎単位として結成されている。
施設園芸農作物 しせつ えんげい のうさくぶつ	農地をより高度に利用するために、ガラス室・ビニールハウス・温室・暖房・冷房・灌水・換気・空調などの設備を利用した施設で行われる園芸農業のこと。
シティプロモーション してい ぷろもーしょん	都市が有する地域資源や優位性を発掘・創造し、価値を高めるとともに、内外に効果的に訴求し、ヒト、モノ、カネ、情報呼び込み、地域経済の活性化を図る一連の活動。地域再生、観光振興、住民協働など様々な懸念が含まれている。
社会増減数 しゃかい ぞうげん すう	市の人口が、他地域からの転入、あるいは他地域への転出によって生じる増減をそれぞれ社会増、社会減という。転入から転出を差し引いた数を社会増減数という。
就職氷河期 しゅうしょく ひょうがき	社会的に就職難となった時期の通称。就職氷河期に該当する世代は、一般的には、1990年代半ばから2000年代前半に社会に出たり、2000年前後に大学を卒業したりした、2019年

		現在40歳前後の世代のこと。
集約型まちづくり しゅうやくがた まちづくり		生活に必要な諸機能を近接させ、移動距離を小さくすることで、利便性の向上を図り、利用者の増加に繋げていくことを目指すもの。 人口減少・超高齢社会、地球環境問題等、都市を取り巻く社会経済情勢に対応する効率的かつ効果的な都市整備の実現に向けた取組み。
集落支援員 しゅうらく しえんいん		地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材。集落への「目配り」として、集落の状況把握、集落点検の実施、住民と住民、住民と市町村の間での話し合いの促進等の実施を目的に市が委嘱する。
新規就農総合支援補助事業 しんき しゅうのう そうごう しえん ほじょ じぎょう		農業従事者の高齢化が進む中、青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図り、持続可能な力強い農業の実現を目指す取組み。
人口構造 じんこう こうぞう		人口を、性、年齢、人種、配偶関係、教育程度、出生地、産業、所得階級等さまざまな標識で分類したもの。朝倉市人口ビジョンでは、人口を年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、高齢者人口(65歳以上)で分類している。
人口動態調査 じんこう どうたい ちょうさ		市町村へ提出される出生・死亡・死産・婚姻・離婚の届出をもとに、厚生労働省が集計・公表を行い、出生・死亡・死産・婚姻・離婚の人口動態事象を把握する統計調査。
森林認証制度 しんりん にんしょう せいど		適正に管理された森林から産出した木材などに認証マークを付けることによって、持続可能な森林の利用と保護を図ろうとする制度。環境ラベリング制度のひとつで、独立した第三者機関が評価・認証する。
スクールカウンセラー すくーる かうんせらー		学校に配置され、児童・生徒の生活上の問題や悩みの相談に応じるとともに、教師や保護者に対して指導・助言を行う専門家。
スマート農業 すまーと のうぎょう		ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を推進している新たな農業のこと。
住みよさランキング すみよさ らんきんぐ		東洋経済『都市データパック』編集部が、1993年以降“住みよさ”を表す各種指標について偏差値を算出して、その平均値を総合評価とし順位付けしている。「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」の4つの視点から、22のデータを用いて平均値を50とする偏差値を算出。
生活習慣病 せいかつ しゅうかん びょう		食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群のこと。
青年農業士 せいねん のうぎょうし		おおむね35歳未満で5年以上の営農経験があり、農業経営の改善に積極的に取り組み、研究学習集団活動等のリーダーとして活躍している者で、県の認定を受けた農業者のこと。
創業塾 そうぎょうじゅく		新規開業を志す人や開業して間もない人が、事業経営における基礎知識や新規開業時の具体的な事業計画・資金計画の立て方を身につけることを目的とした支援事業。

	Society5.0 そさえてい	情報が溢れている現在（Society 4.0）の課題に対して I o T や A I などの最新テクノロジーを活用した便利な社会のこと。 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会。
	ソーシャルワーカー(スクールソーシャルワーカー) そーしゃる わーかー	いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童・生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う専門家。
た	滞在人口 たいざい じんこう	スマートフォン等の「位置情報」を利用した人口集計であり、一定の地域に2時間以上とどまっていることを「滞在」とみなして集計している。
	地域おこし協力隊 ちいきおこし きょうりよくたい	3大都市圏をはじめとする都市圏から住民票を異動させ、市が委嘱し、概ね1年以上（3年程度）地域で生活し、地域協力活動に従事した者のこと。
	地域支援人材 ちいき しえん じんざい	地域における担い手が量・質ともに不足する中、地域再興を「職務」とする人材。
	地域ブランド調査 ちいき ぶらんど ちょうさ	株式会社ブランド総合研究所が、全国約3万人の消費者からの回答を集めた調査で、2006年から毎年実施している。各都道府県と市区町村の魅力度やイメージ、観光・居住・産品購入の意欲などの調査。
	地域未来牽引企業 ちいき みらいけんいん きぎょう	地域の特性・強みを生かして高い付加価値を創出し、将来、成長が期待できる分野での需要を地域内に取り込んで、経済的な波及効果を及ぼすような、地域経済をリードする中核企業。
	小さな拠点 ちいさな きよてん	人口減少や高齢化の進行により、住民の生活に必要な生活サービスや機能が維持できなくなっている地域で、暮らしを守り、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すための取組。
	中山間地域 ちゅうさんかん ちいき	農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域。平地から山間地にかけて、傾斜地が多く、まとまった平坦な耕地の少ない地域。
	つどいの広場 つどいのひろば	地域子育て支援拠点として子育て中の親とその子が身近に支援を受けられる場所。子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を図り、子育て等に関する相談・援助の実施や子育て関連情報の提供・講習等を実施するための拠点。
	低炭素（脱炭素）社会 ていたんそ(だつたんそ)しゃかい	地球温暖化の原因とされる二酸化炭素などの排出を、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑えた社会。
	デジタルマーケティング でじたる まーけていんぐ	インターネット上でのアクセス傾向や意見などを分析して経営戦略を行うこと。
	デジタルメディア でじたる めでいあ	パソコンなどを用いたウェブサイト、電子メールなどの伝達経路のこと。
	テレワーク	勤労形態の一種で、情報通信技術を活用し時間

	てれわーく	や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態をいう。テレ(離れた所)とワーク(働く)をあわせた造語。
な	認定新規就農者 にんてい しんき しゅうのうしゃ	将来において効率的かつ安定的な農業経営の担い手に発展するような青年等の就農を促進するため、新たに農業経営を営もうとする青年等が農業経営の目標に向けて自らの「就農計画」を作成し、市を経由して県に提出し認定を受けた者のこと。
	認定農業者 にんてい のうぎようしゃ	農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農業生産法人。
	年少人口比率 ねんしょう じんこう ひりつ	人口全体のうち、0～14歳人口の割合。
は	八丁峠道路（八丁トンネル） はっちょう とうげ	福岡県嘉麻市と福岡県朝倉市の境界近くにある峠で、国道322号に延長3,791メートルのトンネルが2019年(令和元年)11月16日に開通した。
	バサロ ばさろ	道の駅「原鶴」ファームステーションバサロ。その日の朝採れた新鮮な野菜やくだもの、手作りの加工品が並ぶ生産者の顔が見える直売所。インフォメーションセンターでは、朝倉市や周辺観光地の情報をチェックすることができる。
	原鶴温泉 はらづる おんせん	福岡県と大分県の県境にある、筑後川のほとりの温泉郷。主に杷木志波、久喜宮地域。泉質は、弱アルカリ性で硫黄が混ざっており、古い角質を落とす性質と美肌効果を合わせ持った「W美肌の湯」として広く親しまれ、温泉総選挙2018では女子旅部門で第4位となった。
	病児・病後児保育 びょうじ・びょうごじ ほいく	生後3か月から小学校就学対象年齢までの児童を対象とし、病気の回復期等により集団保育または学校生活が困難な期間に、一時預かりを行う事業。
	不登校出現率 ふとうこう しゅつげんりつ	何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある(病気や経済的な理由によるものを除く)児童生徒で30日以上欠席者の割合。
	ふるさと教育 ふるさと きょういく	子どもたちが、ふるさとについての理解を深め、郷土に対する愛着や誇りを育む教育のこと。
	ふるさと納税 ふるさと のうぜい	生まれ育ったふるさとや自分が応援したいと思う自治体を選び、そこに寄附ができる公的な仕組みのこと。寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度(一定の上限あり)。
	フレイル ふれいる	健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと。
	プロモーションビデオ ぷろもーしょん びでお	観光誘致や移住促進などのPRのため、制作される動画(映像)のこと。インターネットで気軽にアクセスでき、SNS等でシェア(共有)されることで拡散し、多くの人の目に留まることが望める。
	放課後活動事業 ほうかご かつどう じぎょう	地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える、地域を創生するという

		地域学校協働活動。
	ポータルサイト ぽーたる さいと	W e b 上の様々なサービスや情報を集約して簡単にアクセスできるようにまとめたサイト。
ま	マルチハビテーション まるち はびてーしょん	マルチ(多様な)とハビテーション(住居)を組み合わせた造語。 複数の居住空間を行き来しながら生活するライフスタイルのこと。
	モバイル媒体 もばいる ばいたい	携帯電話、スマートフォン、小型のノートパソコン等、外出先への持ち歩きが容易で通信環境が整っている端末のこと。
や	U・I・Jターン ゆー・あい・じえー たーん	大都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称。朝倉市総合戦略では、Uターン、Iターン者に対する取組みに注力している。 Uターン：地方から都市へ移住したあと、再び地方へ移住すること。 Iターン：地方から都市へ、または都市から地方へ移住すること。 Jターン：地方から大規模な都市へ移住したあと、地方近くの中規模な都市へ移住すること。
ら	ライフステージ らいふ すてーじ	年齢にともなって変化する生活段階のこと。年代別の生活状況。人間の一生において、出生、就学、就職、結婚、出産、子育て、リタイアなど、人生の節目によって生活スタイルが変わることや、これに着目した考え方。
	ライフデザイン らいふ ださいん	ワーク・ライフ・バランス(仕事と個人や家庭生活のバランス)など、結婚や子育て、住居、老後の暮らしなどについての計画。人生計画。
	R E S A S りーさす	Regional Economy and Society Analyzing System (リージョナル・エコノミー・アンド・ソサエティー・アナライジング・システム) の頭文字。「地域経済分析システム」 内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。国の支援策「地方創生版・三本の矢」の一つ。
	連携協力協定 れんけい きょうりよく きょうてい	中・長期的な協力を前提として、分野や案件毎ではなく、包括的な協力量針を定めること。
	6次産業化 ろくじ さんぎょうか	農産物を生産する1次産業と、それを加工する2次産業(製造業)、加工製品を流通・販売し、消費に結びつける3次産業(流通、情報、サービス等)を一体的に発展させる産業のこと。
わ	W i - F i わいーふあい	無線で通信する端末がお互いに接続可能になる方式(規格)の名称。
	ワーキングホリデー わーきんぐ ほりでー	2国間の協定に基づいて、青年が異なった文化の中で休暇を楽しみながら、その間の滞在資金を補うために一定の就労をすることを認める査証(ビザ)及び出入国管理上の特別な制度。